



夏休みは、クロアチア・スロバキア・ボスニアヘルツェゴビナに行つてきました。世界遺産となっている美しいブレッド湖の畔にチトー元大統領の別荘があり、多民族国家を独裁によって掌握した大統領が安らぎを求めていたことがわかります。その死後、虐殺の続く民族紛争があり、地中海の真珠と呼ばれていたドブロクニクが砲撃を受け約7割の建物が崩壊して危機遺産となったのは1991年であり、住民は昔のレンガを掘り起こして再建し7年後に再登録されました。教会にはロケット弾が突き抜けた後が解説付きで残り、ボスニアヘルツェゴビナの建て直された家にも銃痕をわざわざ残しており、戦争の恐ろしさを伝え残そうとする姿勢が伺われます。

津波を警告した石碑が忘れられていたことや原爆の記録を子供たちに伝えていないことなど、日本では過ぎたことを忘れようとする傾向があります。長崎原爆の後の秋月医師のミネラル栄養学は被曝者の発症を抑えたのですが、殆ど記録されないままに捨て置かれました。砂糖を禁じミネラルを重視して味噌などの発酵食品の摂取を強調した働きは、今頃になつて思い出されているのです。

便利快適を求める現代人は、却つて健康を侵食されています。自閉症を含めて腸内環境や有害ミネラルの害が海外検査によつて解明されてきていますが、国内では検査機関すらない状況です。クロアチアの再建した旧弊な建物に住み続けることを選択した人々と、民族性を失つた現代建築に住むことの価値観の相違を考えさせられています。教会に集まり、涙を流して祈る人々の中を写真を撮りながら動き回る日本人観光客の違和感と共に、現代に生きる信仰者としての自らの姿勢を反省させられました。

4週間で2回も時差の違う所に行つたので体調を崩しています。どこでも寝てしまふ妻には時差は関係ないらしく元気になっていますが、どこにでもサプリを持ち歩き摂取していたことが思い起こされます。かないません。 柏崎久雄

*

感染症の疑いのある方は廊下の入口から
インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ、はしか等が疑われる方は、中央通路わきにあるインターホンでご連絡ください。院内感染を避けるためご協力ください。待合室も病態別に隔離して診察します。

*

管理栄養士の栄養指導を申し込まないで院長に栄養指導を聞く方がいらいっしやいますが、栄養指導が必
要と診断された場合には、管理栄養士が空くのを待つので診察が遅くなります。ご注意ください。 予約されても指導の変化がなければ、無料となります。

*

麻疹・風疹の予防接種が来年の3月までは、高校2年生も対象になりました。日本脳炎の予防接種が、4歳〜16歳（接種を受ける機会を逸した者）までとなりました。子宮頸がんワクチンは供給が不足しておりましたが、どなたでも予約可能になりました。尚、高校2年生の方は9月30日までに1回目を接種しないと公費の対象になりませんのでご注意ください。 その他の予防接種も含めて詳細は受付に御相談ください。

*

ビタミンC点滴療法について

ガン治療の選択肢として、体調維持と治療のため副作用の無い高濃度ビタミンC点滴療法をお勧めしています。5月のニュースをご覧ください。

*

「聖書を読む会」9月13日（火）2時〜2時20分
「回復の会」13日11時から催されます。

*

低血糖症治療の会の全体研修会が10月10日
（月・祝）10時半から催されます。

*

「低血糖症治療体験集」 ヨーゼフにて発売中。

〈放射能被曝から身体を守る為に〉

放射能汚染は福島ばかりかクリニックのある千葉市稲毛でも高いのが現状です。毎日クリニックのビルの内外で測定していますが、ビルの前の屋外測定値は 8/1 で $0.19\mu\text{Sv/h}$ 、8/31 で $0.26\mu\text{Sv/h}$ でした。どうも雨上がりに高くなるようで、今でも空中の放射能汚染はあり、雨によって地表に落ちるようです。 0.20 として $0.2 \times 24 \times 365 / 1000 = 1.75\text{mmSv/年}$ となり、ICRO 国際放射線防護委員会の年間被曝線量の限界 1 ミリ Sv を超えています。福島県に調査に行ったところ、側溝の泥や雨どい、草木の葉に放射能数値が高いようで緑深い山々は人々にとっては恐ろしい所となっているようです。

1. 内部被曝に注意する。

上記のものは外部被曝ですが、より注意しなければならないのが内部被曝です。厚労省の定めた飲食物摂取制限の放射能セシウムの量は、飲料水・牛乳・乳製品が 200Bq/kg で、野菜・穀類・肉・魚などが 500Bq/kg です。これをシーベルトに換算すると、一日 500Bq/kg 放射能汚染した食品を 500g 食べると $4.75\mu\text{Sv}$ になり、それを一年食べると 1.7mmSv/年 となります。

一般に一日に摂りたい食品の重量は、 2200kcal として（辻学園栄養専門学校による）ご飯 700g 、芋類 60g 、果実 150g 、肉 60g 、魚介類 90g 、大豆製品 60g 、卵 50g 、牛乳 200g 、緑黄色野菜 120g 、その他の野菜 230g 、きのこ 10g 、海藻 10g 、油脂 20g 、種実類 3g 、砂糖 9g 、調味嗜好飲料 15g だそうです。総計 1787g です。

政府によって安全とされるのは上記の基準ですが、その基準の 3 分の 1 の放射能が半分の食品に含まれているとすると、それが 1 時間で排出されるとしても、だいたい 1mmSv/年 になってしまうのです。更に、水にも含まれ、埃にも含まれるとすると、安心して子供達を育てることができなくなってしまいます。

しかし、私達は単に放射能に汚染されるだけの為に生きているわけではありません。神様は、放射能被曝に対処する食品やビタミンを用意しておられるのです。私たちは恐怖をあおっているわけではありません。油断せずしっかりと対処するべきであるとお伝えしているのです。

2. 生物的半減期と生物濃縮。

体内に取り込まれた放射性物質が半分の量になるまでの期間を生物的半減期と言い、放射性ヨウ素で幼児 11 日・成人 80 日、放射性セシウム 137 は筋肉や臓器に蓄積され 10% が 2 日間で、90% が 110 日で排出されるそうです（富永國比古博士「放射線物質から身を守る食事」）。

内部被曝が怖いのは、身体から排出されるまでの期間ずっと放射性物質からの被曝を細胞に直接受けるからです。外部被曝で被曝量は距離の 2 乗に反比例するとありますが、放射線源に直接あたる悪影響がどのくらいなのか未知の領域でしょう。上記の食品の半分に放射性セシウムが基準の 3 分の 1 に含まれているとして、110 日で排出されるとすると放射能の半減期は 30 年ですから殆ど変わらないとして、 $110\text{日} \times 24\text{時間} = 2640$ となり、これだけで非常に危険なものとなりうるのです。

生物濃縮というのは、例えば放射能に微量に汚染されていたワラでも牛は大量に食べるので放射能汚染がひどくなるということで、汚染した海藻を食べた小魚、それを大量に食べる大きな魚・・・と、今後魚介類の濃縮の危険が疑われます。アメリカのハンフォードにあるプルトニウムの再処理工場の排水が流れ込むコロンビア川で放射能濃度を測定したら、川の水の放射能濃度を 1 とすると、プランクトンで 2000 倍、プランクトンを食べる魚で 1 万 5000 倍、その魚を食べるアヒルでは 4 万倍に蓄積されていたそうです。

3. 放射線はどのように身体を傷つけるのか。

放射線は細胞内の水と反応して、ヒドロラジカルという強力な活性酸素を発生します。体内では、抗酸化酵素や抗酸化物質を用いて活性酸素に対処するのですが、このヒドロラジカルは酸化力が極めて強いいため、遺伝子を傷つけ、タンパク質や資質を酸化させてガンや様々な病気を起こすのです。外部被曝であれば、身体を貫通し遺伝子を損傷しても修復能力によって身体

は対応するのですが、内部被曝であれば、遺伝子は損傷を受け続けることになります。

さらに、細胞は場所によって分裂の速度が異なり、生殖腺や造血組織、胎児や乳幼児は細胞分裂の速度が速く、これらは非常に速い速度で細胞分裂を繰り返し、損傷した遺伝子の修復が追いつかないまま細胞が分裂され、突然変異が大きなものとなり、ガン化や障害児が起こることとなるのです。

4. 有用ミネラルやビタミンなどで放射性ミネラルを防御し、排出する。

マリヤ・クリニックでは、有害ミネラルの確認を毛髪検査でしてきましたが、ヒ素・カドミウム・水銀・鉛・アルミニウムなどの有害ミネラルを亜鉛・カリウム・カルシウム・マグネシウム・ヘム鉄などで代替的に置換できることを確認してきました。

また、放射線の害は酸化ですから、抗酸化作用のあるグルタチオン・ビタミン C・アルファリポ酸・ビタミン E などが非常に有効であることも確認できます。

さらに、DNA 修復のためにナイアシンやタンパク質が必要であり、細胞膜を強化と細胞分化のためにビタミン A が有効であることは言うまでもありません。以下に詳細に説明します。

A. グルタチオン

グルタチオンは強力な抗酸化物質であると共に、肝臓に多く存在して毒物・薬物・有害金属を体外に排出するために用いられ、放射性物質の排出やガン患者にも有効です。これらの排出には多くのグルタチオンが急激に消費されるので、継続的に十分なグルタチオンの補給が必要ですが、ニンニク・玉ねぎ・キャベツ・赤唐辛子・ブロッコリー・米や小麦の胚芽・ホウレンソウに多く含まれていますが、消化管から吸収されにくいようです。私どもは、グルタチオンというサプリメントをお勧めしています。

B. 亜鉛

亜鉛を投与されていたマウスは被曝に対して抵抗力が強いことがわかっていますが、放射性物質の吸収を妨げ、排出にも効果があります。亜鉛は細胞分裂にも必要であり、抗酸化酵素にも必要で、成長に欠かせないミネラルですから、子供だけでなく大人にも十分な亜鉛の摂取が放射線対策と健康維持に欠かせません。亜鉛が不足すると傷の修復が遅くなり、皮膚病や前立腺障害にもなっていきます。

C. カルシウム・マグネシウム・カリウム

カルシウムは、放射性物質「ストロンチウム 90」と化学構造が似ているため、不足すると後者を取り入れ、十分であると取り入れないことになります。カルシウムを摂取する時は、マグネシウムも取り入れることが必要で、エネルギー代謝にも必要です。カリウムは、セシウムと似ているために、その吸収を阻害しますし、現代人に不足しているミネラルです。

D. ビタミンC・アルファリポ酸

ビタミンCの大量摂取が放射線被曝の害を最小限に防ぐことは、証明されていますが、人間とモルモットだけが体内で産生できません。また、体内で自らビタミンCを作り出すマウスに大量のCを投与すると、しなかったマウスに比べて著しく被曝障害が抑えられたことが実験で証明されました。その量は体重 70 kg の人間換算で口から摂取して 10 g だそうです。αリポ酸は水溶性・脂溶性どちらの性質もあるので、体内の至るところで抗酸化力を発揮します。

E. イノシトール・ナイアシン

エネルギー代謝に必須なので、低血糖症の治療にはイノシトールとナイアシンを用いることは周知ですが、DNAの修復にも効果があり、放射線対策にも有効です。イノシトールはウランの対外排出にも有効だそうです。

F. ビタミンA

ビタミンAが細胞膜を強化しガンを予防するのは知られていますが、放射能障害の予防にも有効なことが多くの実験で証明されています。

《 患者の皆様へのお願い 》

1987年に15坪の小さな部屋で診療を開始してから3回の移転を経て、2011年5月に医療法人社団マリヤ・クリニックとして新しい活動を始めました。32歳のひ弱な院長もすっかり元気になりましたし、施設も拡大しました。これまでのご協力を心よりお礼申し上げます。

私達は、提唱してきた分子整合栄養医学が内科的治療だけでなく、精神諸症状の治療にも有効であることを証明してきました。さらに、現在は遺伝的な病気と言われる自閉症にも効果があることを解明しつつあり、また放射線障害やガン治療にも有効であることを確認しております。このような医療を進め、実践して多くの患者さんを治療していくのには、とても私どものような小さなクリニックだけでは足りません。

これまでの機能性低血糖症の検査データを統計調査し、医学界に発表するために、副院長を公衆衛生の研究では世界的に進んでいるカナダ、バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学に送り、日本のある大学医学部の研究室とも協力して、研究をしています。低血糖症治療の会を発足し、患者さんへ治療方法を理解していただき、啓発し、交流する機会を提供してきました。

今後は他の医療機関の医師の方々とも協力体制を強化していきたいと願っております。低血糖症をはじめ、精神諸症状、ガン治療、自閉症、腸内環境改善など、それぞれの分野の協力者を患者さんや医療関係者に求めていき、研修や交流、啓発を進めていこうと願っています。いろいろな面でのご意見、ご協力をお願いします。また、治療によって良くなったかたは、その体験記を私どもへ投稿してください。詳細に書いていただいても構いません。

患者さんのご要望と治療のご質問にはできる限り、応対しております。私どもの規模の医療機関としては、かなり多いスタッフがいて皆様に対応していることからもご理解いただけると思います。それでも不備な面もあり、至らぬところもあると思います。ただ、患者さんがご自分のご意見や苦情を強調されると、若いスタッフも精神的に追い詰められることもあります。もし気がつかれたことがありましたら、担当の稲川課長か柏崎モンド課長にお伝えください。

マリヤ・クリニック友の会も作ろうかと考えております。ご意見がありましたら、お寄せください。私達は、患者さんを交えた医療というものを模索しています。健康自主管理を理念としていることをご理解ください。

株式会社ヨーゼフでは、治療に必要な良質なサプリメントを提供し、更に開発してきました。現在は、放射能汚染への対策として、イスラエルから放射能空気清浄フィルター器を輸入して、販売しようとして予定しています。場合によっては、自社製品として製作することも考えております。放射能汚染の灰などのガラス化システムも調査してきましたが、その展開や紹介に苦慮しております。特に、レントゲン技師か放射能取り扱いの資格を持っている方を必要としています。ご協力、ご援助くださる方は、ご連絡くださるようお願いいたします。資本の増強のために、株式の購入者も求めています。

《 診 療 時 間 》

月曜～金曜（午前8時30分～12時10分、午後2時30分～5時30分）

土曜（午前8時30分～12時10分、午後2時～4時）

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・介護保険取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・生活保護指定機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・自立支援医療機関
- ・小中台小学校校医
- ・栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)